

旧製図室改修

リフォームの匠

プロジェクト背景と目的

昨年度から旧製図室の改修が建築学コースの学生の手で行われている。「建築材料、施工方法を実際に学び、検討し、作業する場」と「建築学コース内のつながりの場」を創る目的であるので、改修工事を先輩たちから引き継いだ。改修の目的の一つは建築コースの他学年との交流を作ることでもあるので、各作業への参加を広く募り、2~4年で作業することにした。部屋の使用者だけでなく作業者の安全性も図ることが、建築施工のバリアフリーと考え、塗装を安全に作業することを十分に検討し、塗装材料の安全性を確認した上で作業を行った。また、旧製図室の改修成果でイメージが大きく改善したことから、部活動で使用するトレーニングルームの塗装が劣化し全体の雰囲気暗いので、整備したいという依頼が体育会からあり、そちらにも協力することにした。

今年度の活動

1. 塗装の危険性の調査
2. 塗装材の選定
3. 塗装面のデザイン
4. 塗装の実施
5. 塗装後のアンケート調査



塗装前の旧製図室



塗装後の旧製図室



塗装前のトレーニング室



塗装後のトレーニング室

結果報告

旧製図室の塗装前に大学近くの市営住宅の改修工事を行い、職人の方に技術を学ぶ機会があった。塗装工事は塗装前の養生が最も大切とのことや、実際の養生の仕方、ハケやローラーの使い方を学んだ。そのプロセスのおかげで塗装工事をスムーズに行うことができた。実際に行った経験により学んだことは、デザイン上求める色をイメージ通りに仕上げることはとても難しいということであった。しかし、作業を2、3年生にも参加してもらうことで改修を通してつながりを作ることができ、技術を伝達することができたと思う。また、アンケート調査でも各部屋とも大変良好な結果を得られたこともうれしいことであった。



作業風景